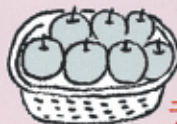


新年超特大号

1

2012
JANUARY



週刊誌の病理

政治家はこうして殺される中田宏
橋下の出自を暴く異常

前大阪府知事

真珠湾70周年

太平洋戦争
最後の証言

門田隆将

第三の開国「どころか」壊国「だ」田中康夫・稲田朋美
「野田決断」なんて茶番劇
スーダンPKO派遣で死者が？
竹島をムザムザ見捨てた野田総理
サムスン榮えて国滅ぶ
朝鮮学校、補助金の実態を暴く

野田かずさ

三橋貴明

新藤義孝

潮 匡人

横田由美子

久保紘之

堤 堯

総力大特集

「外交敗北」とTPP

国家再興の秋
私を騙した中国要人

憂国の巻頭論文
28ページ

西村眞悟

櫻井よしこ

竹島を見捨てた

新藤義孝

自民党衆議院議員

野田総理

十一月十一日は、民主党政権の外交能力にいかに関係があるか、その象徴的な出来事の起こった日でした。

この日、韓国は竹島で国会議員を含む数百名が参加するコンサートを開催。そして、野田首相は「ホノルルAPEC首脳会議で、TPP交渉参加に向けて、関係国との協議に入る」とこととしたと会見で明らかにしたのです。

この二つの事象に対して、私は「日本外交が主体性を失っている」という共通の問題意識を抱いています。

野田首相は就任後、十月十八、十九日の日程で初の外遊として韓国を訪問しました。このこと自体が実は問題で、二〇〇九年に当時の鳩山首相が初外遊で韓国へ行つて以来、日韓の間で公式訪問は行われていませんから、首脳間外交の原則で言えば、今回は韓国大統領が訪日するというのが正当な順序のはずでした。

ところが、野田首相はその順番を繰り上げてまで韓国を訪問し、そのうえまさに「お土産」といわんばかりに、朝鮮王朝儀軌の一部を持参したのです。

のです。

そもそも、朝鮮王朝儀軌は現時点での日韓間の懸案、竹島などの問題がまるで解決されず、日本側の要求に韓国がまったく応じないという現状では、引き渡しを履行するべきではありません。しかも、日韓図書協定では引き渡し期限が十二月十日となっており、急いで引き渡す必要のないものをわざわざ携えて訪韓したことになります。

少なくとも、日本側から文書を引き渡すのであれば、こちらからも条



しんどう よしたか

1958年、川口市生まれ、明治大学卒業。1996年、38歳で衆議院議員初当選（現在4期目）。自民党埼玉県連会長。安倍改造内閣・福田内閣で経済産業副大臣。小泉内閣で、総務大臣政務官、外務大臣政務官を歴任。自民党・国防部長、商工部長代理、総務会副会長等を歴任。現在は衆議院決算行政監視委員長、党領土特命委員長代理、自民党ネットサポーターズクラブ（J-NSC）初代代表。

件を出すべきです。韓国に残してきている日本側の重要文化財級の古文書、たとえば対馬宗家のものだけでも二万八千冊、そのほか韓国の国立図書館にも、日本由来の文書十数万点が所蔵されています。これについてどう扱うのかを、はっきりさせる必要があります。

韓国に残る日本圖書は、日韓併合時代に朝鮮総督府が図書館を整備し、戦後すべて放棄して置いてきたものです。すでに一九六五年の日韓基本条約で「お互いの文化財や請求権の請求は放棄する」と約束し、日本は返還要求をしませんでした。ですから今回、日本が所有する儀

軌を韓国へ持つていくのは断じて「過去の謝罪」や「贖罪」による「返還」ではなく、あくまでも日韓の文化の交流と未来関係を構築するための「引き渡し」だというのが趣旨です。

したがって、儀軌引き渡しのために交わされた日韓圖書協定は、互いの文化交流を目的とした双務性を持つていなければならないのです。その趣旨を韓国側にはっきり伝えるべきと、私は外務省を通じ、野田首相に申し伝えました。

訪韓した野田首相は持つて行った「お土産」を引き渡すと、「首脳間の信頼関係をしっかりと築いた第一歩になった。これから未来志向の議論を頻繁にやっていきたい」といって、胸を張って成果を強調したのです。

李明博大統領はどう応えたか。野田首相に対する感謝の言葉は一言もなく、「儀軌の返還は韓日関係の未来のために象徴的な意味合いがある」と

発言したことが、外務省の会談報告ペーパーで明らかになっています。

外務省報告から消えた言葉

この対応がいかに異様であるかは、今年六月に行われたフランスから韓国への朝鮮王朝儀軌貸与の際と比較すれば明確です。これは一八六六年、フランス艦隊が李氏朝鮮を攻

め、江華島にあった王室の文書館別館である外奎章閣から強奪した儀軌を戻してほしいという韓国の要求に対し、両国が十七年に及ぶ交渉の末に実現したものです。

フランスは、「国有文化財は返還しない。五年間の期限付きで貸与する」としたのです。このような厳しい条件でありながら、返還の際には大統領夫妻も出席した盛大な歓迎式典が行われました。

一方、今回は日本の首相が自ら持参したにもかかわらず、感謝の言葉

ひとつかけられなかったところか、

李大統領は「韓日間で障害になっている懸案もある。野田首相が誠意を持って積極的に臨んでくれることを期待する」と発言しているのです。

つまり、「韓日間の歴史問題の解決は、日本と野田首相が積極努力せよ」ということで、日本側の課題とされ、しまっているのです。

李大統領のこの発言は、なぜか外務省の会談報告ペーパーからそっくり抜け落ちています。私が韓国側の報道記事を日本語翻訳したものをみて「韓国ではこのように報じられているようだ」と指摘した結果、外務省がそれを明らかにしたのです。

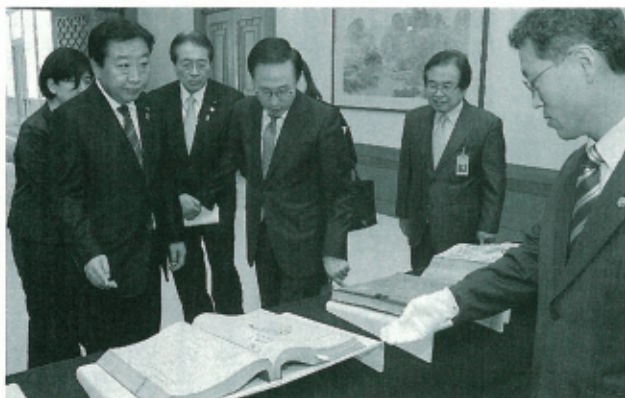
しかも韓国の報道では、李大統領の発言は「日本の一部極右議員が鬱陵島を訪問しようとしたり、教科書に竹島が記述されたりすることは、野田さんが責任を持って解決してください」という意味だと解説されている

のです。

この外務省報告ペーパーにはおかしな点がさらにあります。野田首相は李大統領をわが国に国賓として招請しています。外務省のペーパーでは「できるだけ早期の李明博大統領の訪日に合意した」とありますが、実際に公開されている会談録では「韓日間の懸案があることが事実であり、難しい点がある」となっています。李大統領は、懸案が解決しない限り訪日は難しいと言っているのです。

なぜ、このような報告ペーパーを外務省が作ったのかわかりませんが、日本の国会議員は、韓国の報道を見なければ実際に首脳会談でどのようなやり取りが行われたのかわからない、という状況は極めて深刻です。

私は野田首相の訪韓に先立ち、儀軌の引き渡しは反対だが、四つの懸案について会談で触れるべきである



お土産持参で

(写真提供/共同通信社)

と、外務省を通じて野田首相に申し入れました。

野田首相へ四つの宿題

①韓国に残る日本圖書の引き渡しを申し入れること

②竹島のヘリポートや海洋科学基

地の工事中止、三百メートルの大橋計画の中止を申し入れること。

③稲田朋美議員、佐藤正久議員と私を、適用法律のないままテロリストと同様に扱って入国拒否した問題の回答を得ること。

④ソウルの日本大使館前に慰安婦の石碑を設置する計画に抗議し、中止を申し入れること。

この石碑は慰安婦団体が計画し、韓国の保健福祉相が設置を推奨したという経緯があります。管轄するソウル市が許可したとはいえ、外交上問題のあるものについては政府からソウル市に計画を中止するよう、指導すべきではないかということです。

この四つの宿題について、野田首相は一つ目の日本圖書引き渡しに関して「韓国にある日本の文書へのアクセス権を強化してほしい」と言ったのみで、ほかの三つに対しては触れることさえできなかったのです。

儀軌を持参したうえ、韓国に五兆円規模の支援をしてウォンを支えるという約束まで交わしたにもかかわらず、李明博大統領からは感謝の一言も引き出せなかったのです。外交成果はゼロといわざるを得ません。

しかも、問題はそれだけでは終わりません。野田首相が帰国した十月十九日以降、韓国の竹島における活動が一気に加速しているのです。

帰国から一週間あまりの十月二十七日、竹島に新現場管理事務所を設立する建設計画が決定したと報じられました。これは韓国の文化財庁が〇九年から三度審議し、景観や環境上の問題があるということで止まっていた計画です。

事業は慶尚北道という地方自治体が行いますが、許可権限を持つているのは国の文化財庁です。二十六日に文化委員会が開かれ、予算は約七億円、今回、計画が承認され、基本

設計がはじまることになりました。

さらにその翌二十八日、今度は民間のデザイナーがモデルを引き連れ、ファッションショーを行いました。このショーは当初、八月の予定が悪天候を理由に延期されており、野田首相の訪韓終了を待っていたかのように開催されたのです。

日韓関係を阻害する行為

そして十一月十一日には冒頭で触れた、竹島ではじめてとなる音楽コンサートが開催されました。五人の国会議員が竹島に上陸し、自治体関係者ら百人あまりと、竹島を訪れていた観光客約四百人が鑑賞したといえます。

このコンサートの計画が明らかにしたのは十一月七日、韓国の国会議員パク・ソニョン氏のHPでした。事前にはまったく報道されていなかったのですが、コンサートの情報が

アップされた、と私の仲間である韓国ウオッチャーの方から情報を得てこの計画が判明したのです。

この時点では外務省も情報を把握しておらず、外務省に電話をして「私のTwitterに情報を挙げてあるから見るように」と言うほど唐突な発表だったのです。

この情報を受けて外務省は八日以降、三回にわたり、韓国政府にコンサートの中止を申し入れています。

また、私が委員長代理を務める自民党の領土に関する特命委員会も「わが国民の心情を逆にするものがあり、『未来志向の日韓関係』を著しく阻害する行為だ」として、中止を求める決議を行いました。

ところが、韓国外交通商部は「日本の抗議は対応する価値がない」とし、日本政府の再三の申し入れを一顧だにせず、韓国の国会議員らは竹島でのコンサートを実施したのです。

実は、八月一日の私たちの入国拒否騒動以降、大臣を含めた政府関係者や国会議員は一人も竹島に上陸しておりません。

そもそも八月には、竹島で韓国国会や政党による三度の行事が予定されていました。まず十二日、国会の竹島に関する領土守護特別委員会が竹島での国会の初会議を計画。委員長は、五月にわが国の北方領土に不法入国したカン・チャニル議員です。

十四日と十五日には、ハンナラ党と韓国・民主党代表者一行がそれぞれ竹島に上陸し、声明を出すことになっていました。

わが国固有の領土である竹島に韓国の閣僚らが上陸するなど、絶対に許されることはありません。

これまで日韓間で政治合意があると思われてきた「竹島の件に関しては、お互いなるべく摩擦を避ける」という